

2月14日～15日の雪害に対する果樹の事後対策の徹底について

甲府、河口湖で積雪の深さが観測史上1位の値を更新するなど記録的な大雪となりました。(14日3時の降り始めから15日11時の積雪は、甲府108cm、河口湖138cm)

被害が発生している園では、雪解けを待って安全を確認してから次の項を参考に事後対策を行っていただきたい。

1 施設

全壊したハウス

全壊したハウスでは、雪解けを待って資材を取り除く。

ブドウで萌芽期以降、立木果樹で開花し始めたものは、今後、寒さに当てると凍害の発生する恐れが強いので、苗木を手配する。

ブドウで芽が動く前のステージ、立木果樹では開花していない場合は、資材を取り除き、樹の保護に努める。

半壊したハウス

半壊しているハウスで、杭などで補強し、保温できる場合は、安全を確認してから補修する。すでに生育が進んでいて、保温できない場合は、今後、寒さに当てると凍害の発生する恐れが強いので、苗木を手配する。

一部損壊したハウス

一部損壊したハウスでは、早急に除雪し、光線透過量を高めるとともに、生育の進んだ園では破損箇所を早急に補修し、生育に影響しないように加温に努める。

雨除けハウスなどで、一部破損したものは、除雪し、破損個所の修復に努めるとともに、生育中の植物がない場合はビニールや防鳥網など被覆資材を取り除き、次の降雪に備える。

2 露地栽培

ブドウ

棚の倒伏した園では、樹体の裂傷等の被害を確認し、主幹部等に亀裂が発生している場合にはマイカー線等による結束を行ってから、支柱等を利用し樹体を持ち上げる。

なお、傷口にはビニール等を巻き付け雨水がしみこまないようにする。

凍寒害対策として、肥料袋等を主幹部分に巻き付け樹体を保護するとともに、樹もとの防寒対策(敷ワラ等)もあわせて実施する。

立木果樹

主枝・亜主枝等に亀裂が発生している場合には、マイカー線等による結束とビニール巻き付けを行う。

枝折れが発生している場合には、枝折れ部分を切除し切り口に癒合剤を塗布する。

共 通

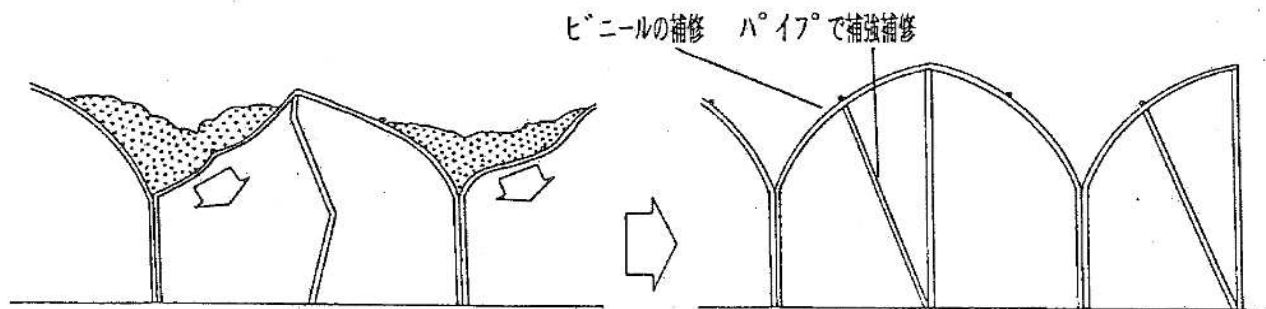
今回の積雪量は、極めて多いため、堆肥や炭等の資材を散布し融雪に努める。

ブドウ棚を点検し、支線の緩みやアンカーの浮き上がりが見られる場合には、早急に補修・補強を行う。

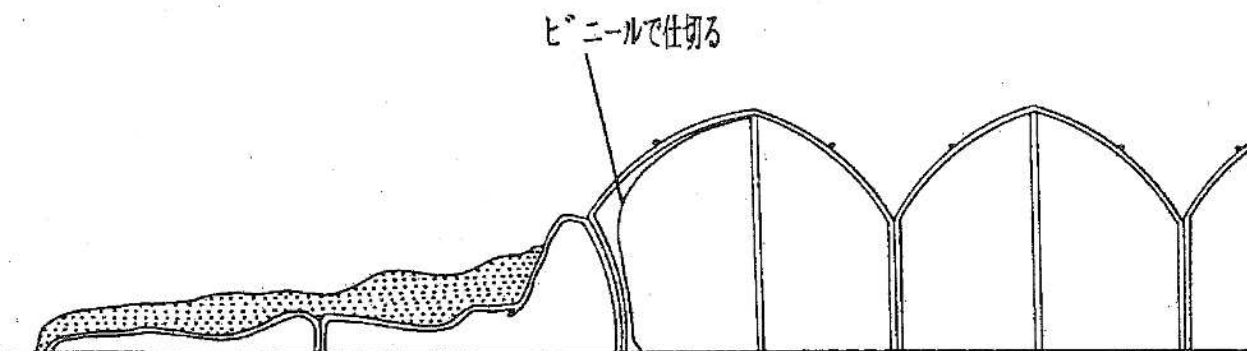
立木果樹は主枝や亜主枝を支柱などで補強し、次の降雪に備える。

ハウス施設（ブドウ、モモ等）

施設が変形などしている場合は、ビニールの破損部分を速やかに補修し、変形箇所に足場パイプ等を立て補強と補修を行う（第1図）。なお、パイプの復元には、リフト車等を用い押し上げる。
連棟パイプハウスの一部が倒壊した場合は、被害がない部分をビニールで仕切る（第2図）。



第1図 施設の修復



第2図 施設の一部倒壊への対応